公民館報 まつもと

発行
2023
5/30

松本城の桜

松本市広報R5-37
●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

増える「子どもの居場所づくり」

コロナ禍により社会活動が制限される中、市の「子どもの居場所づくり推進事業」は拡大し、新たに活動を開始した団体もあります。その一つ「笑和（しょうわ）はうす」を紹介します。

推進事業の概要

子どもにとって安全、安心で、温かな地域社会を創造するため、大人が子どもに対して食事を中心とする団らんの場を提供する活動を支援する事業です。

地域内の子どもが誰でも利用できる取組み、同一施設での所定の時間・回数の実施、毎回の食事提供、子どもの学習支援や保護者の生活相談など満たすべき要件があります。

令和2年度以降、9団体から8団体増え、現在17団体が支援を受けています。

テーブルにそろえた食材や道具

市ではより多くの地域で活動する団体が増加するよう、支援体制を整えています。

笑和はうすの一コマ

「今日はさくら餅を作ります」主催者で元教員の大久保俊介さんの声が、新村公民館に響きます。今日の参加者は6組の親子14人です。

スタッフが用意した材料が並び、レシピの説明が続きます。いくつかのテーブルに分かれ、8人のスタッフが手伝います。飽きてしまった子や眠くなった子のためのスペースも用意されています。

お話スタッフと遊んでいる間に、薄皮が焼き上がります。あんこを包むとさくら餅の完成です。初めて作って上手くいった！　皮がくっついたけれどあんこが美味しい！　など、たくさんのはしゃぎ声が響いていました。最後に帰りの会をして解散となりました。

親子仲良く力を合わせ

笑和はうすの活動とは

会の目標は「あそぶ・たべる・まなぶ・はなす」です。この4本柱に基づき、目的や願いに賛同する地域の皆さんにより運営されています。

他の団体との連携を模索したり、時節柄、食物提供時のアレルギーに注意して運営したいと、夢が広がります。

会への参加は無料、今後は月に2回新村公民館にて実施予定とのことです。

これからの展望

子どもの居場所づくりは、地域づくりの観点からも大切な取組みです。この他にも独自の子ども支援活動が活発化しており、コロナ禍による制限にもかかわらず、ニーズは増大していると思われます。

申し込みをすれば、誰でも気兼ねなく参加できる子どもの居場所が、多くの地域で運営されれば良いですね。

わがまち自慢（寿台地区）

「寿台町会連合会創立50周年記念式典」&「2023寿台 桜寿祭」開催

令和5年4月14～16日、寿台町会連合会は、50周年記念式典と恒例の桜寿祭を合わせて開催しました。今年度計画されている記念イベントの第1弾です。寿台体育館、ふれあいセンター、福祉ひろばなど、地区スタッフが入念に準備した各会場に多くの住民が集い楽しみました。

雨上がりの好天に恵まれた16日に記念式典および祝賀会が催されました。蟻ケ崎高校の書道パフォーマンスや、樽酒、焼きそば、フランクフルト、ソフトドリンク、豚汁、おにぎりの無料サービスなど、祝賀ムードにあふれました。

昭和43年から入居が始まった寿台地区は、市・県営住宅と分譲住宅が混在する県内最大級のマンモス団地でした。地区の連帯やきずなを深めるために、当時から住民間、世代間交流を積極的に進めてきました。

今回も桜寿祭の「ワクワク子ども広場」は、親世代、子ども世代のきずなを深めようと、若い住民で構成される壮青会と育成会が企画しました。また、ウォークスタンプラリーは、幅広い年代で参加可能なコースとして作り、親子連れ、友だち同士、高齢者も回っている姿が見られました。

50周年記念イベントとして開催される今年の寿台の地区行事が、さらに楽しみとなりました。

前日の雨の中組み立てた骨組みに当日朝から準備する地区スタッフ

書道パフォーマンスと大勢の参加者

よしかわ

令和5年5月1日 現在

総世帯数	8,173世帯
総人口	17,369人
男	8,680人
女	8,689人

芳川地区
地域づくりセンター
☎58-2034
芳川出張所
☎58-2034
芳川公民館
☎58-2034
芳川福祉ひろば
☎57-0168
※芳川地区地域づくりセンター、芳川出張所、芳川公民館へのご連絡は同じ番号となります。

健康教室「ぽかとれ」が始まりました。

加齢などによる筋力低下（フレイル）を予防しようと、芳川公民館と地元でリハビリデイサービスを運営する「ぽっかぽか」が協働する、健康教室ぽかとれが4月12日から始まりました。初回は、健康運動指導士による転倒防止につながる四肢の筋力アップトレーニングと、体力測定が行われました。

両手を腰にあてて、何秒片足立ちが出来るかの測定では、2人が目標値の一分を軽々クリア。これには指導者もびっくり。

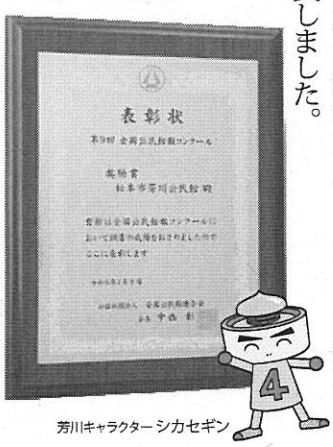
参加のみなさんは、体幹を支える様々な筋肉の働きを感じながら、トレーニングにチャレンジしていました。

教室は、毎月第2水曜日の午前10時から、全6回開催されます。中途からの参加も大歓迎です。ご希望の方は、公民館までご連絡ください。

公民館報芳川版が全国入賞

令和4年度の全国公民館報コンクールで、公民館報芳川版が奨励賞を受賞しました。

写真をふんだんに使ったレイアウト、インパクトのある見出し、連載40回を数える「芳川の今昔物語」などが評価されました。



芳川キャラクター シカセギン

芳川の春祭り

芳川では、村井神明宮と野溝諏訪社。コロナ禍で連綿と受け継がれてきた村祭りも中止や縮小を余儀なくされてきましたが、今年は、コロナも落ち着き、ようやく賑わいが戻ってきました。

▲村井神明宮の長持ち

▲野溝諏訪社の長持ち

▲野溝諏訪社の浦安の舞

地域のみなさんこんにちは！
どうぞよろしくお願いします！！

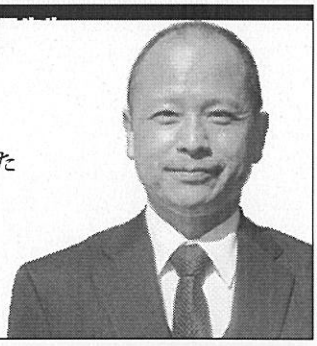
芳川フレッシュインタビュー

芳川に赴任されたみなさんにお聞きしました。

筑摩野中学校　輿　幸雄 校長

Q.ご出身地はどちらですか？
A.和田です。
Q.着任先の印象は？
A.約20年振りに勤務することになりました。「懐かしい」という印象です。
Q.芳川地区へ一言
A.久しぶりにお世話になります。「深く考え逞しく生きる」生徒を育成し、「誇りのもてる筑中にする」ために精一杯勤めさせていただきます。よろしくお願いします。

信明中学校　本田 崇之 校長



Q.ご出身地はどちらですか？
A.飯田市です。
Q.着任先の印象は？
A.あいさつができ、向上心をもった生徒が多いと感じました。
Q.芳川地区へ一言
A.地域のみなさまとともに子どもたちを育てて行きます。よろしくお願いします。

開明小学校　百瀬 顕正 校長

Q.ご出身地はどちらですか？
A.波田です。
Q.着任先の印象は？
A.明るくさわやかなあいさつが、一日のやる気を与えてくれる学校です。
Q.芳川地区へ一言
A.芳川から少し遠い開明小ですが、地域の方にも「おらが学校」といっそう思っていただけるよう努めていきたいと思います。

平田保育園　西澤 朋味 園長

Q.ご出身地はどちらですか？
A.神田です。
Q.着任先の印象は？
A.住宅街に位置し、コンパクトな印象ですが、子どもたちの元気がたくさんつまっている保育園です。
Q.芳川地区へ一言
A.地域の方のお力をお借りしながら、保育にあたりたいと思いますので、よろしくお願いします。

芳川消防署　二村 勝彦

Q.ご出身地はどちらですか？
A.松本市ですが、現在は安曇野市在住です。
Q.着任先の印象は？
A.ベテランから新人までバランスよく配置され、救助隊経験のある職員も多く、活気あふれる署です。
Q.芳川地区へ一言
A.複雑な現代社会と予測不能、多様化する災害の中で、地域の安全安心のために職員一丸となって、信頼される組織を目指します。

村井・寿交番　入　和希

Q.ご出身地はどちらですか？
A.長野市です。
Q.着任先の印象は？
A.街のみなさんが温かく、活気にあふれ、素敵な街だと感じています。
Q.芳川地区へ一言
A.街のみなさんが、安心して暮らせる街をつくります。ご協力、よろしくお願いいたします。

令和5年度 芳川町会連合会が発足

4月から平田町会長に野村一男さん、長丘町町会長に林弘樹（こうき）さんが就任しました。令和5年度の芳川町会連合会の会長には、赤羽清栄さん（小屋・再任）、副会長には鈴木嗣さん（村井町・新任）、会計には名和伸二さん（北原町・再任）が選出されました。

（後列）左から 美芳町 犬飼 勝志さん、長丘町 林　弘樹さん、木工 石田 真敏さん、平田 野村 一男さん
（前列）左から 北原町（会計）名和 伸二さん、小屋（連合会長）赤羽 清栄さん、村井町（副会長）鈴木　嗣さん、野溝 田中 千俊さん

令和5年度 芳川公民館 館報編集委員

委員長	角間 達郎 木工
副委員長	中澤 剛 村井町
編集委員	小西 貴朗 小屋
〃	関 貴之 野溝
〃	鈴木 等 平田
〃	開出 知之 美芳町
〃	丸山 健一 長丘町
〃	河西 史郎 北原町
館長推薦	村田 正幸 野溝
〃	吉井 幹人 平田
公民館長	柏澤 由紀一
公民館主事	藤澤 智恵美

芳川地区地域づくりセンターのニューフェイスです！

どうぞお気軽にお声をかけてください。よろしくお願いします。

視点

⑪信州大学 金井直教授 アートは自由だ！

規模感が良いまち

「松本には大学やサッカーチームがあり、オーケストラの演奏にもふれられる。地域への意識も高く、人が住むために大事なことがそろっている」と話すのは、信州大学の金井教授（人文学部）です。現代美術を研究分野にする金井教授が松本の地で学生を巻き込みながら、美術を多角的にとらえた取り組みを行います。

自由な作品との対話

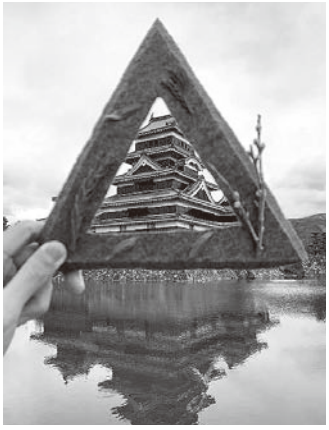
ひとつが、アーティストとコラボしたワークショップや展覧会の実施です。昨年の12月と今年の1月には版画家の常田泰由さんの協力のもと、画用紙に自由に絵を描き、バラバラにして束ねる、本づくりのワークショップを行いました。参加者は、型にはまらない美術の面白さを体験すると同時に、アーティスト・参加者・学生が作品を介して対話する場になっています。

世界にひとつだけの本づくり

展覧会は、これまでに市内の和菓子屋や大学構内の赤レンガ倉庫などで実施しました。その場所の雰囲気、歴史を活かした展示をアーティストと共につくり上げています。

暮らしの中の芸術

金井教授のもとで学ぶ、鳥山倫史さん（人文学部４年生）は「枠ワク切り取るまち歩く」を企画しました。この企画は、フェルトに市内で拾った落ち葉や木の実を貼り付けて作ったフレームから、まちをのぞいて楽しむものです。日常のなかの当たり前を芸術的に捉えるきっかけになっています。



三角フレームに
きれいに収まる松本城

鳥山さんは、大学での学びを通して「凝り固まったバイアス（先入観）がなくなり、アートって自由だと思うようになった」と話します。金井教授と学生が提案する、自由な芸術が、松本のまちを、違った視点から捉え直しています。

金井先生にインタビュー！

写真でつづる

まつもと今昔⑥1

～ 時代の要求に応えて ～

昭和2年　完成したころの様子
開村130年のあゆみ(旧安曇村編纂)より転載

釜トンネルは、大正池の水を霞沢発電所に送るための、送水管を運ぶ目的で作られた。工事終了後は道路用に整備され、昭和８年に大正池までバスの運行が始まった。

令和５年４月26日撮影

当初は狭く急傾斜で、その上信号による交互通行で不便だった。少しずつ改良を続けていたが、新しいトンネルが求められて、平成17年に現在の釜トンネルが完成した。

おこひる

農業を本格的に始めて数年が経過した。私が目指しているのは、一部の作物を除き有機野菜作りである。当初は2トンの堆肥をどう使い切るか考えてしまったが、今ではその何倍あっても平気だ▼5月は夏野菜の播種作業を計画的に進める時期だ。ナス・キュウリ・オクラなどは直まき栽培だ。そのためには有機質肥料を豊富に含んだ地力が無いと育たない。移植苗や接木苗は使わなくなった▼作業記録を残すことは大切である。1日の作業記録はA4白紙1枚を使い記入している。4色ボールペンとマーカーを活用すると見やすくて便利だ。作物の成長記録と明日の予定も記入している。雑草対策は厳寒期を除いてルーティンである。圃場に除草剤を使わないので、三角ホーや除草バーナーで対策している。雑草の種類によって対処方法を変えるようにもなった▼有機野菜作りは15年の年月が必要といわれている。まだ先は長いが、有機質で育った健康野菜とともに自身の健康にも気を使って、達者で長生きできれば幸いである。

歴史探訪 探ろう松本 34

和田地区

古くから文化が開け、教養を尊ぶ気風の和田地区は、多くの文化人を輩出しています。

地区の概要

松本平のほぼ中央、梓川と鎖川に挟まれて、穏やかに広がる複合扇状地に立地し、蘇我・衣外（いげ）・殿・南和田・太子堂・中・和田町・下和田・境・西原の10町会で構成されています。令和５年４月１日現在４、１３４人・１、５１０世帯が居住しています。

昭和の大合併（昭和29年）の頃は、水の恩恵を受け、稲作中心に酪農や養蚕などの農家が８割を、現在は２割程度になりました。

昭和57年、松本市が工業団地建設地区に指定し造られた松本臨空工業団地は、今や県下最大の規模となり発展を続けています。

培われた文化

明治維新まで、１７８年もの間、幕府の直轄領でした。年貢・生活の規制など藩領と違った扱いを受けてきたことが、村民の間に比較的自由な気風と進取の気性が育ったものと思われます。

近代から現代においても、松本市の文化・教育の一拠点となり、市で初めての文学館「窪田空穂記念館」が開館し、短歌教室・文化講座などが行われています。和田公民館に隣接する「歌碑公園」には、木立の中に窪田空穂・太田水穂をはじめとする和田ゆかりの文化人10人の歌碑・句碑が建てられています。

昭和７年、東京在住の和田出身者が、心に生き続ける故郷の思いを「東京和田会」として発足させました。以来、毎年東京で総会が開催され、地区からも代表者が参加し親睦を深めています。

「歌碑公園」にはたくさんの碑があります

これからの催し

コロナ禍で地域活動も停滞しました。行事の中止で住民相互のつながりが薄れることを懸念しています。行事の再開にあたり、全世帯を対象にアンケート調査を行いました。これを機会に、さまざまな思いや期待が反映できる活動を目指してゆきます。

松本平の野鳥たち

オオルリ　（2022.5 松本市入山辺　写真提供：信州野鳥の会）

スズメよりやや大きい。幸せを運ぶ青い鳥として有名。日本三鳴鳥（ウグイス、コマドリ、オオルリ）の中でも、ルリ色が美しく複雑な鳴声が魅力的な日本を代表する夏鳥。ほぼ全国の渓流沿いの森林などで姿をみることができる。樹木の梢など目立つ場所で「ピィー　チュリー　ジジ」「ピーリーリー」「ピールリピールリ　チチン」など澄んだ声で良く鳴く。アルプス公園ではキビタキとオオルリの競演が見事。

表紙について

松本城の桜

今年は例年より非常に早く開花し、撮影時はちょうど見ごろでした。お天気も良くて、お客様もたくさん訪れていました。見どころは、外堀沿いの桜並木を橋の上から見るのがおすすめです。

（撮影　2023.4.3　松本城）